

花粉のはなし

東洋産業だより



Vol. 170
2018年3月号

3月は寒さも底を打ち、少しずつ暖かくなっていく時期ですね。今年は3月6日が虫が一斉に動き出す「啓蟄」で、そろそろ虫が発生し始めるのではないかと意識し、花粉症の方は本格的に対策を取らなければならぬ季節であり、悩み事も多くな

表1. 近畿、中国、四国地方の主な花粉原因植物の花粉飛散時期
赤色・・・とても多い 黄色・・・多い

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
スギ	黄色	赤色	赤色	黄色						
ヒノキ			黄色	赤色	黄色					
イネ科				黄色	赤色			黄色	黄色	黄色
フタクサ								黄色	赤色	黄色
ヨモギ								黄色	赤色	黄色
カナムグラ									黄色	赤色

表2. 花粉対策法と効果

対策法		効果
加湿器	○	花粉を落下させる鼻や喉を乾燥から守る
手洗いうがい	○	花粉を洗い流す
マスク・メガネ	○	花粉の侵入を防止する
帰宅時、玄関先で服を払う	△	室内へ花粉を持ち込まない
洗濯物を室内で干す	△	花粉の付着量を減少させる

この時期の花粉症の主な原因であるスギ花粉は2月～3月に多く飛散しますが（表1）、今年のスギ花粉の飛散量は2月初めの記録的な寒波の影響により、例年よりも同じかやや少ないところが多く、飛散開始時期も遅くなると考えられています。花粉症は、鼻や目などの粘膜に飛散した花粉が付着し、それに対してのアレルギー反応が起こることによって引き起こされます。花粉は目には見えませんが、空気中を大量に漂っている（落ちたものが再度撒き上げられることもあります）ものを吸い込んだり、手に付着しているものをこ

すりついたりして体内に取り込まれます。対策としては、目に見えない花粉をいかに体に近づけないかをイメージしましょう（表2）。

また、害虫が少ないとされるスギですが、スギの花粉はカメムシの発生量との関連があるということも言われています。先日ニュージーランドに入港した日本の自動車運搬船から、害虫のクサギカメムシが見つかり、強制退去を求められるといったニュースがありました。このカメムシはスギなどの針葉樹林で発生し、スギの球果（実）を餌として成長します。また、本種は越冬のために屋内へ侵入することが知られており、家屋害虫としても問題となります。このことから、スギ花粉の量が多いとスギの実の数が増加し、結果として目にするカメムシの量が多くなるといわれています。スギの花粉の量が多い年は花粉症だけではなく、カメムシに悩まされる可能性も高くなります。晩秋にカメムシを屋内に侵入させないためにも、対策の準備を忘れずしておく必要があります。



ミミズクという名前を持つ生き物

私たちは生き物には名前を付けて認識しています。例えば、日本でよく見かけるチョウの一種をモンシロチョウと呼んでいます。このチョウは、英語圏ではsmall whiteやcabbage butterflyと呼ばれており、モンシロチョウという名前のように、日本でのみ通用する名前を和名といいます。生き物の和名や英名は、特にルールがあるわけではないため、比較的自由に名前が付けられています。

例えば、ペットとして人気が高い鳥類であるフクロウのなかまでは、ミミズクという種があり、この鳥は耳のような角毛を持っています。この鳥の古い名前をツク、ズク（フクロウのなかまが角毛、羽角を持つもの）といい、さらにミミという言葉が付与されてこの和名がついたといわれています。ところで、「ミミズク」といえば、昆虫類のカメムシのなかまと同じ和名を持つものがあります。この虫は鳥のミミズクの角毛のような突起が胸部にあることから、和名が付けられました。

このように、和名はその生き物の姿などに由来して付けられることが多く、身近な生き物につけられた名前の由来を考えてみるのも面白いかもしれませんね。



本社
岡山市北区新屋敷町3-1-19-20
TEL 086-241-8080
FAX 086-241-8094

拠点
大阪・姫路・岡山・倉敷・福山・広島
高松・松山・金沢

東洋産業株式会社